

## 国際～日本海交流関係から見た地域の文化・産業史を調査・学習し、 大田の国際遺産／資源を地域の文化産業新興へ活用しよう!

### ■興味深い大田の国際文化交流史

大田地域には古代から近代まで各時代に中国や朝鮮、ヨーロッパとの豊富な国際・日本海交流史があります。この地では近年、石見銀山を世界遺産へ！と石見銀山調査が実施され、これに関わる国際関係史が明らかになりつつあります。私たちは大田の国際・日本海交流史を調査し現在、多数の外国人が暮らす異文化交流の地で「国際的歴史文化資源を地域の文化産業創りへ活用しよう！」と呼びかけています。今後3年間、他地域の方も含め関心ある皆さんにこうした調査・学習・討論などの協働を提案します。ぜひ、ご参加を！



### ■古代から中世、近世における大田地域

近刊書に中世アジア交易で石見銀の記述が多く見られます。当時の世界銀流通で南米ポトシ銀と石見銀が大半を占めました。また、石見銀山には中国人や朝鮮人が住み、石見銀積出港へ中国、朝鮮そしてポルトガル船も来航しました。そしてオランダも石見銀によるアジア～ヨーロッパ貿易で莫大な富を手に入れました。一方、大田西部の仁摩、五十猛から久手・波根へ至る海岸部には韓島、韓浦、韓神新羅神社、百濟など朝鮮半島由来の地名が多くあります。五十猛町には正月の仮屋(グロ)という朝鮮南部の風習行事が伝わり、朝鮮渡来人が住んだ久手町百濟では江戸期に鳥取日野川の砂鉄を原料に鈔製鉄が行われ、周辺沿海4地区の鈔製鉄・販売や廻船業による江津などは、全国への鈔交易で繁栄しました。

### ■近代から現在～国際文化活用地域創り

大田沖を流れる海流は古代から渤海や高麗、李氏朝鮮の派遣船や漂流船を海岸に寄せ、朝鮮渡来人や国際文化を大田に伝来させました。明治に入ると日本の朝鮮半島進出に伴い、大田周辺の人々は仕事を求め朝鮮半島へ出かけ、また朝鮮人も多くやって来ました。大田地域にはこうした歴史的蓄積の上に現在、約300人の外国人が暮らしています。外国人支援や国際文化を活用した地域創りを目的とするNPO法人エスペランサは、目的事例として「大田地域における国際文化を活用した地域の文化、産業創り」に取り組みます。

\*次回事業：集合／1月13日(日)午前9時30分：同市五十猛町大浦の漁協前

\*内容／大田市五十猛町の正月行事「グロ」見学と久手町「百濟鈔」現地及学習会

◆問い合わせ連絡先： 江角(090-9733-0910)

# と も に 地 域 で 暮 ら す

## 「お母さん・お父さんのための日本語教室」 ただいま開講中！

NPO エスペランサでは、日本で子育て中の、外国出身のお母さん、お父さんを対象とした日本語教室を、2012年10月から開講しています。

学校や幼稚園・保育園の先生との会話、「おたより」を読む、市役所での手続き、子どもの健康に関する言葉など、日本で子育てをする際に必要となる基本的な日本語を学びます。言葉や文化がちがう環境での子育ては、思わぬ誤解からトラブルになることも。互いに学び合う中にたくさんの気づきがあります。教室は、2013年3月まで開講予定。詳細は担当者（堀西）まで。



## 大社・神門通りで 「第1回多文化共生交流会」開催！

同じ地域で暮らす様々な国・地域の出身者が、互いに知り合い、理解を深め合うきっかけにしようと、大社・神門通りのカフェ「香りプレッセ」を会場に「多文化共生交流会」が開催されました。

神門通りに店を構える「いづも屋」さんとのご協力のもとで開催したこの交流会は、中国、ブラジル、モンゴル、そして日本出身の23人が参加。思い思いに、会話や各国の料理を楽しみました。

「長年日本にいたがこんな会への参加は初めて」という声もあり、地域とのつながりが希薄という外国出身者の現実に改めて気づかされました。



## スリランカ&ブラジルの料理・文化紹介を楽しむ

### ●スリランカ料理・文化紹介講座



スリランカはインドの南の島国。ある年齢層には旧「セイロン」名で知られた仏教国でセイロン紅茶で有名な国です。今回のご講師ラシスさんは大学教授で二年前に日本へ、奥さんも一年前に来日された。

10月28日、出雲・塩冶コミュニティセンターで開催したカレー料理と紹介講座には14名が参加された。カレーは、チキン・ダウ(豆)・ココナッツの3種類。ラシス夫婦が自家所有のカレーやハーブ素材を各種用意され、熱心にメモる参加者に説明しながら調理が進む。カレーのかぐわしいにおいが室全体に漂う。米は「インディアカ」、サフランで黄色く色づけます。昼食会では参加者が次々とお代わりし、遂にカレーもライスも完売！多量の料理がこん

なに早くなくなった料理教室は初めて！そしてセイロン紅茶を飲みながらスリランカ風景画面に見入る。海風そよぐ緑の山々、多数の仏と寺院はやさしい自然と人情を感じる。日本人観光客も増加するスリランカの魅力が鮮明に残る講座でした。

### ●出雲国際交流プラザ料理教室

9月10日に開催された出雲国際交流プラザ主催のブラジル料理教室。NPO エスペランサが講師と料理のアレンジで協力させていただきました。当日は10名が参加され、講師のネイデさんとともにブラジルの揚げ餃子「パステウ」とキャロットケーキ作り。異文化にふれ合う和やかな集いとなりました。

### ●塩冶コミュニティセンター文化祭

11月4日、塩冶コミュニティセンター文化祭のブラジルコーヒーコーナーに、NPO エスペランサも参加。ブラジル人女性3人が作ったキャロットケーキや、ブラジルの炭酸飲料「ガラナ」を提供させていただきました。ブラジルコーヒー&ケーキのセット、ガラナとも大好評でほぼ完売、地域の方々にブラジルの味を楽しんでいただきました。



# 松江で「フチ国際フレンドシップ・フェスタ 2012」を開催

NPO 法人エスペランサは 11 月 18 日（日）、日本国際文化体験、外国人との交流、地域の外国人の生活問題にふれる「国際フレンドシップ・フェスタ 2012」を菅田会館を会場に開催し、10ヶ国の外国人や市民約 100 人が参加しました。午前 11 時に開場。文化体験コーナーでは日本文化（抹茶と折紙）や韓国韓紙体験、フランスやベトナム紹介展が行われ、主会場では韓国やフィリピン、スリランカやブラジル、フランス 5ヶ国の料理を販売。

11 時半に開会し江角 NPO エスペランサ理事長が「今回、NPO として松江で初の本格事業。在住外国人や外国人観光客が増加している中で、国際化にどのように対応していくのが課題」とあいさつ。公演最初は同会館で練習する女性 3 人が銭太鼓を披露。続いて袴姿の M さんが日本音楽をギター演奏。そして、ベトナムとスリランカ出身の島根大留学生が各国や松江の生活報告。参加者増える。松江フラ



ンス文化教室メンバーが「オーシャンゼリゼ」などシャンソン 2 曲をフランス語で合唱し大きな拍手。そして、地域に住む韓国人やブラジル人、フィリピン人それぞれが生活体験を語り参加者が静かに聞く。特にフィリピン人 2 人は報告のため時間をかけてメモを作り、家庭や学校の具体的問題を報告し大きな拍手。後日、参加した韓国人数人が二人の報告に感動したと語る。この後、キューバ・フランス 2ヶ国紹介後、最後に伊藤美千代ウィズフレンドが「ジャズ、ボサノヴァ、あかとんぼ」など心に染み入る歌で終わりました。今回、松江の事業試行とし盛り沢山の内容で長時間となりました。

今後、日本外国文化理解や外国人との交流、国際料理や音楽を楽しむ一方、地域外国人問題の対策など安心して暮らせる多文化地域創りを進めます。



## 島根・日本の隣国であるロシアへの関心と理解を！

日本海対岸に位置するロシアは島根・日本のお隣さん。ロシアは古来から関係が深い朝鮮半島・中国と違い約 150 年の付き合い。事は清国とロシア帝国による 1860 年の北京条約で大国ロシアが隣国として出現！その後、日露戦争一ソ連邦の形成により長〜い政治的軍事的な対立関係。今日、島根・鳥取両県はロシア極東地方と友好協定結び交流が拡大中。

NPO エスペランサはロシア理解促進に向け料理教室や紹介講座を各地で開催しています。9 月 9 日、米子市で境港に住むエレナさんを講師に夏のスープ「ホロドニック」（ビーツ入赤いスープ）やハッシュドポテトのドラニキ、リンゴのデザート／ワレニキ 3 品を作り好評でした。12 月 2 日、邑智郡美郷



町で島根県国際交流員ターニャさんを講師に外国人含む 15 人が参加。有名なスープ・ボルシチやクレープ／ブリヌイというロシアの味を楽しみ、ロシアの生活文化が紹介されました。1 月には浜田市で同教室を開催します。

## ブラジル生活体験レポート ~その1~

文：家島雅美（松江市）

私は JICA 日系社会シニアボランティアとしてブラジルでの 2 年間の活動を終え、2012 年 7 月に帰国しました。サンパウロ州マリリア市に住み、地域の日本語学校の先生たちに日本語授業の助言をしたり、日系クラブの会員たちと交流して、日本文化を広める活動をしていました。

ブラジルは日本とは地球の反対側に位置し、飛行機で 24 時間、トランジット時間を含めると 30 時間以上かかる遠い国ですが、150 万人以上の日系人が住んでいます。盆踊りやカラオケ大会、太鼓フェスティバル、日本語お話大会など日本文化活動も盛んです。移民の国なので様々な人種がそれぞれの文化を尊重しあいながら豊かに暮らしています。そんなブラジルの魅力を今回からシリーズでお伝えします。



ブラジルは日本の約 23 倍もの広大な国土ですから、北から南まで素晴らしい自然が広がり、点在する国立公園には国内はもとより世界中から観光客が訪れます。まずは北東部のレンソイス・マラニェンセス(マラニョン州のシートという意味) 国立公園を紹介します。15 万 5 千ヘクタールにわたる白い砂丘が、まるでシートを広げたように美しく、しかも雨季と乾季ではその様相が全く異なるのです。乾季の間は砂に潜ってじっと我慢して生き延びた魚や亀や

カエルたちが、雨季にできた大きな湖で息を吹き返す姿が、2007 年 11 月に NHK「ダーウィンが来た」で放送され日本でも話題となりました。ブラジルの国立公園はどこも自然保護のためしっかり管理されており、ごみ一つ落ちていません。ほぼ 100%石英という砂が、太陽光に反射して白く輝き、青い空とエメラルドグリーン湖が広がり、その美しさに心が洗われるようでした。



### 日本文化体験事業 ベトナム人が折り紙の体験学習！



8 月 21 日、NPO エスペランサは、学業とアルバイトで多忙なベトナム人対象の、日本文化「折り紙作り」体験学習を実施。ベトナム人 5 人を含む 10 人が折り紙に挑戦しました。

### 「ガラナ」販売中です！

NPO エスペランサでは、ブラジルの代表的な清涼飲料「ガラナ」を、出雲市内の下記のお店で販売していただいています。売上げの一部は、地域で暮らすブラジルの方々をはじめ、外国出身市民の方々のサポートや、異文化理解・交流事業などの取り組みに使わせていただいています。ガラナを通じて、国や言葉・文化を超えた、誰もが住みやすいまちづくりへぜひあなたも参加してみませんか？

#### 【販売店】

- 「和み」さん（スーパーHOK 塩冶店前）
- 「ふたばショップ」さん（出雲市役所内）
- 「大社門前 いづも屋」さん（大社・神門通り）
- 「香りプレッセ」さん（大社・神門通り）